

# 海東英和市長就任インタビュー

# 市長に聞く！

初代高島市長として、2月13日に就任された海東英和市長に、高島市のこれからのまちづくりや抱負、就任しての感想等を語っていただきました。

就任おめでとうございます。初代高島市長になられた今のお気持ちを聞かせください。

この広い高島市、5万6千人が暮らすまちの市長にならせていただきました。広い地域ですので、隔々にして一人一人の方々に気持ち向くように心がけたいと思います。

そして、今日までの各地域の具体的な取り組みなどが、大切な個人が支えてくださっていることを大事にしていきたいので、できるだけ現場に出かけていきお互いの信頼関係を築いて参りたいと思います。

それでは、まず合併直後の新しい高島のまちづくりについて、聞かせください。

合併協議会長をさせていただいてましたので、まずは、これまでの合併協議の約束事を一つ一つ実現させていくことで、この高島市に対する信頼感を築きあげていけるように、しっかりとやっていきます。

また、合併協議の中で示されたデータ（情報）の中には、置き変えなければならぬものもあると思いますので、なるべく早く試算やシミュレーションをやり直して、市民の皆さんに早く現在の高島市の状態をお知らせしていきます。

「今、財政が大変だ」と言うだけでなく、よりわかりやすい状態で提示して、「例えばこういう風にしていきたいでしょう」といったメッセージとして発信をしていきます。

選挙期間中には多くの市民の「生の声」を聞かれてきたと思うのですが、その声に対する思いをお聞かせください。

（高島市は）滋賀県で一番高齢化率の高い地域ですが、介護予防などを充実させて逆に「健康長寿の理想郷」となるような高島にしていきたいと思えます。

そして、湖西線の利便性とか病院

の医療内容などの市民の皆さんの願いに応えられるよう、それらにも早速取り組んで参ります。中でも一番は、防災対策の充実を図ること。地震・水害などに対応できる体制を、早急に立ち上げていきます。

合併によるスケールメリットと地域ならではのスマイルメリットの両方が大事だと言われていますが、特に「地域」についてどのように考えておられるか、聞かせください。

身近な自然環境を支えている「地域」という意味と、福祉的な暮らしを支えている「地域」という面があり、今の時代の中でそれが文化とし

てとっても価値がある、というのがこの高島のおもしろさだと思います。だから集落ごととか、旧町村ごとの面白さみたいなものがぜひ光るようになりたいし、例えば、介護保険をベースにした「地域福祉」という形での展開も考えています。

また地域自治組織といったものを作って、地域のことは地域で創りあげることのできる地域予算とか地域裁量といった面も進めていきたいと思っています。

少し先の話になりますが、将来的に高島市をどんなまちにしていきたいですか。



地域が光るようにしていきたい  
(マキノ町在原地区)

では厳しい財政状況の中、市民から求められている行財政運営について、聞かせください。

自然減を基調とした人件費の削減がいち早く進むような体制を作ること、それに小さなことから積み重ねて行政経費の削減を進めていき、高島市の体質改善をしていきます。

また投資対効果という視点で、絞るばかりでなく「市役所がよく働いて、市民の皆さんの満足度を上げて

いく」という尺度もあると思うので、市民の皆さんに「お前らようやってくれろ」といわれる市役所を職員とともに作っていきます。

最後に、市民の皆さんへの決意を述べてください。

市長室の一般開放やメールマガジンなどを利用し情報提供を進め、まず情報公開を進めます。そして市民による自治が実現できるように努力します。また、議員の皆さんと力を合わせて、未来を展望し、一所懸命に努めさせていただきます。

市民の皆さんの力が大いに発揮していただけるように、市民活動の応援をいろいろなかたちで心懸けて参ります。

どうぞよろしくお申し上げます。

ないものねだりから、あるもの探しへ

(箱館山から、高島市を望む)